

荷主ヒアリングの結果概要 (追加: 柑橘類の東京エリアへの輸送)

第3回地方協議会
九州運輸局 自動車交通部

大手荷主の取り組みについて、九州運輸局が各荷主から聞き取り、第2回協議会において、3つの荷主（住設メーカー、冷凍冷蔵倉庫及びスーパーマーケットの配送センター）についてまとめるとともに、事例を踏まえた長時間労働の改善方策を示した。

第3回協議会においては、農産品輸送における好事例について紹介する。

なお、聞き取り内容を九州運輸局の視点でまとめたものであり、また、荷主の全ての取り組みを網羅したものではないことに留意。

- 第2回協議会で紹介した荷主の概要及び改善事例
 - ① 住設メーカーの配送センター
 - ② 食品メーカー系の冷凍冷蔵倉庫（配送センター）
 - ③ 全国展開スーパーマーケットの配送センター
- 第3回協議会で紹介する農産品輸送における取り組み
 - ✓ 柑橘類の東京エリア（市場）への輸送における好事例

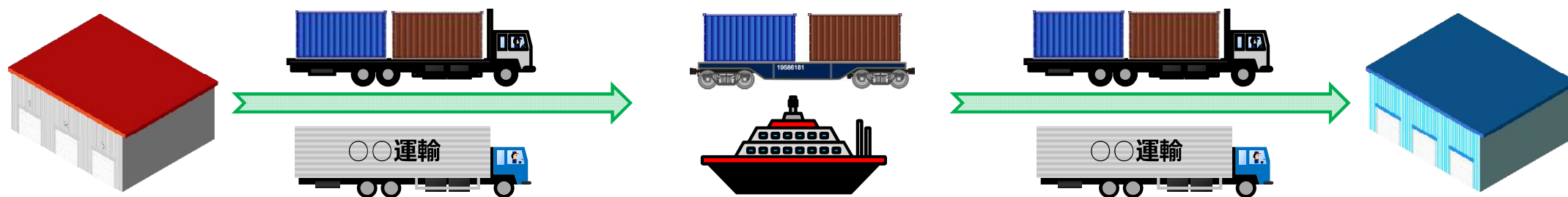
<事業の概要>

- 九州で生産される柑橘類を全国に輸送。
- 柑橘類は年中生産されるが、輸送ピークは10月～1月。

<特徴>

- 北海道、東北、関東、中部、九州に輸送しているが、仕向地によってトラック、フェリー、鉄道を使い分けて輸送。
- 東京エリアへの輸送においては、主としてトラック輸送を行っているが、外気温が低くなる11月中頃から鉄道輸送を行い、繁忙期である年末にはフェリーも活用。

農家 → 運送 → 青果センター → 運送 → 鉄道・フェリー → 運送 → 市場 → 運送 → 消費者



東京エリアへの輸送

1	青果センターでコンテナ（トレーラ）に積み込み	庫内作業員・ドライバー
2	コンテナ（トレーラ）を駅・港まで運送	運送会社による輸送
3	コンテナを鉄道で輸送・トレーラをフェリーで輸送	鉄道・船会社による輸送
4	コンテナ（トレーラ）を市場まで運送	運送会社による輸送
5	市場で荷下ろし	ドライバー

<改善の取り組み①>

- ドライバー・トラック不足、長時間労働などのリスクを回避するため、トラックによる輸送時間を少なくするため、フェリーを活用した。
(フェリー活用：26時間、トラックのみ：20時間)

<改善効果>

- ☆ 輸送時間がかかるものの、安定的に市場に輸送することができることとなった。
- ☆ 安定的に供給できない産地より、競争力を得ることができた。

<改善の取り組み②>

- 鉄道利用時の扱いについて、発荷主（農協）、着荷主（市場）、運送会社（元請、下請）及び鉄道会社が対面で話し合う機会を設け、着荷主（市場）への配送時刻（到着指定時刻）を変更。
(配送時刻：22時～2時 → 16時～18時)

<改善効果>

- ☆ 待機時間が無くなった。
- ※ 着荷主（市場）から、これまで運送会社からの申し入れは初めてであり、かつ、配送時刻に対する要望も初めてである、との反応があった。